

調査・研究評価検討会議事要旨

1. 日 時 令和5年6月7日（水） 13時30分 ～ 17時00分

2. 場 所 財務省関税中央分析所 大会議室

3. 出席者

【外部専門家】

（座長）国立大学法人 筑波大学 数理物質系 特任教授

喜 多 英 治

元 一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会 調査研究部長

嵩 比呂志

公益財団法人 総合安全工学研究所 専務理事

中 村 順

【関税中央分析所】

所長 升 平 弘 美

主任研究官 大 村 庸 一

第1調査研究室長 篠 原 淳一郎

第1調査研究室研究官 今 村 洋 太

第2調査研究室長 野 崎 達 也

第2調査研究室監視官 山 崎 良

第2調査研究室研究官 原 裕 樹

第2調査研究室 飯 田 拓 之

（事務局）

総務課長 中 村 知 則

総務係長 羽 成 隆

4. 議事概要

（1）調査・研究をとりまく背景等について、事務局から説明が行われた。

（2）調査・研究課題の評価について、大要次のような議論が行われた。

○ 匂いセンサに関する調査研究（事後評価）

本研究は、当初、匂いセンサを取締検査機器として単体で活用することを目指したが、現在の技術では複数の異なる匂い分子の中から不正薬物等の特定の匂いだけを検知することが難しいことが判明したことを受け、第二の活用方法として匂いセンサを活用した麻薬探知犬の訓練補助機を作製し、匂いの数値化及び見える化に取り組んだものである。

当該訓練補助機は、麻薬探知犬の訓練者に匂いを客観的なデータとして

示すことができることから、麻薬探知犬の訓練の効率化に寄与することが期待される。

以上のことから、本研究を終了することは妥当である。

なお、今後の技術進歩によるセンサの高性能化が進むと、本研究で明らかとなった課題を解決できる可能性もあることから、今後も匂いセンサに係る技術の進歩を注視することと共に、データ処理の技術など引き続き広く情報収集に努めていただきたい。